

美術シラバス 高校3年

1. 高校3年間での教科到達目標

① 絵画、立体、デザイン、工芸を中心に表現手段の基礎を学び、造形的な創造の能力を伸ばす。	② 作品を創り出す喜びを味わいながら、自己と向き合い表現することとは何かを学習する。	③ 芸術を愛好する豊かな情操を育み、個性を認め合う、柔軟でおおらかな鑑賞力と知識を習得する
--	--	---

2. 科目の到達目標と評価の観点

(科目) 美術	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2 単位	第3 学年 《選択》	副読本：新造形と美術 浜島書店
学習の到達目標	美術を自己表現の手段として考え、創造していく技術や、描写力、発想力を身に付けていく。美術系大学への進学希望者に対応し、油絵、デザイン、日本画、彫刻、工芸の実技試験の内容を対策し、主にデッサン、油絵、平面構成などの技法、技術を習得する。		
評価の観点	＜知識・技能＞ 造形の基本となるデッサン力を身につける。 対象物をよく観察し、考える力をもつ。		
	＜思考力・判断力・表現力＞ 作品に対しての思考や責任感。個性豊かな表現力を評価する。		
	＜主体性・多様性・協働性＞ 授業中の主体性を持った制作態度と、個々の作品を認め合う柔軟でおおらかな視点を評価の対象とする。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの	・・・ 100%
B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	・・・ 80%
C：「努力を要する」状況と判断されるもの	・・・ 60%
D：未提出，未実施	・・・ 0%

【教科横断、外部との連携】

- ① 授業中制作した生徒の作品を公募展に積極的に出品する。
- ② 日本、世界史を踏まえて、美術史を学び、多くの芸術的作品を鑑賞する。

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期	美術ガイダンス	○ネット上の画像検索の仕方 についての注意点を、生徒に周知	○美術の授業に必要な道具類の把握。 教科書と画材等に、名前記入をすることで 紛失予防の徹底。
4 月	① 美術の教科書紹介 ② 美術の授業での パソコンの扱い 方の説明。		○パソコン、備品の扱い方の周知で生徒の制作が行いやすくなる。 ○欠席者への配慮。
5 月	○1学期課題 「石膏デッサン」 デッサン基礎を学ぶ。	○基礎的なデッサン力を身につける ○過去の参考作品を鑑賞する	○必要な用具。 ①木炭 or 鉛筆 ②練り消しゴム、 ③カルトン or パネル ④木炭紙、画用紙
6 月		○モチーフの形を正確のとらえ 立体感、明暗、陰影の描写をする。 ○対象物をよく観察し、立体を把握することが必要である。	○鉛筆デッサンを基本とするが、油絵、に対応するため、木炭デッサンも対応する。 ○用具の説明。
7 月	○風景スケッチ 鉛筆 「小山田緑地公園」 ○デザイン基礎 平面構成「金物、果物」 アクリルガッシュ 絵の 具で着色する。	○校外の風景をスケッチする ○ケント紙 A3 に平面構成を描く。 アイデアスケッチをもとに自由に構成して描く。 ○提出場所は教室内の乾燥棚。作品に名札を付けて提出する。	○スケッチに必要な画材を各自持っていく ○参考作品を鑑賞し、自分の作品制作のヒントになれば取り入れる。 ○ロイロノートに画像を提出 もしくは美術準備室に持ってくる。
夏 休 み 課 題	○夏休みの課題 受験対策 「ポートフォリオ作成」	○題材となるテーマは各自で選択する。 ○オリジナルな作品である事 ○自身の作品の写真を撮りファイリングする。	○提出に必要な要点のまとめ、準備を進める。

2 学 期	○2 学期課題 鉛筆「自画像デッサン」 または、2点透視図法。	○鏡を用いて自分の顔を観察する。 ○自己表現につながる作品を描くことをめざす。 ○2 点透視図法を用い建築物を描く。	○必要な画材 ① 画用紙 A3 ② 鉛筆 2H～6B ③ デッサン用スケール ④ 練り消しゴム ⑤ 布 ○ロイロノートにレクチャー画像を配信する。
9 月	○エスキースを描く。 構図を考えて、画用紙の画面に効果的に描く。	○教科書の参考作品と、過去の美術の授業で制作した参考作品を鑑賞する	○美術係を中心に授業中に制作した作品の展示準備を行う。
	○文化祭の展示のための作品準備。	○1 学期課題作品、夏休みの課題の展示用の準備を行う。 (名札、台紙貼り、ファイル)	○教室内の乾燥棚の提出すること。
10 月	○自画像、2点透視図法 作品の提出	○作品に名札を付け提出。	○必要な画材 ① パネル ② アクリルガッシュ絵の具 ③ 鉛筆 ④ 定規 ○鉛筆で下描き。 ○絵の具で細部の描写をする。
12 月	○2 学期課題 「平面構成 or デッサン」 アクリルガッシュ絵の具を用いて、平面構成を描く。	○与えられたモチーフを自由に構成する。 ○アクリルガッシュ絵の具で着彩する。 ○絵の具の混色の工夫を学ぶ ○教室内乾燥棚に提出する。 ○作品に名札を付けていない生徒に連絡する。	○欠席者に対応 ロイロノートに画像を提出もしくは作品実物を美術準備室に提出する。

3 学期	○生徒の課題に対応する	○実技試験課題に必要な項目に、個々に対応し、生徒のサポートを行う。	○実技試験に必要な準備を行う。
---------	-------------	-----------------------------------	-----------------

3. 学習計画及び評価方法等

評価の観点及び内容	評価方法（具体例）
<知識・技能> ○対象をよく観察し描写することができる。 ○表現する内容を深く思考する能力がある。 ○丁寧な作業工程である。 ○芸術に対して好奇心をもち、工夫をすることができる。 ○作品の完成度を高め、仕上げることができる。	○学期課題の提出作品。 ○授業中の作品への取り組み方。 ○授業中の制作態度。
<思考力・判断力・表現力> ○個性豊かな感性であること。 ○アイデアなどの発想力が豊かであること。 ○作品の内容を深く思考することができる。	○学期課題の提出作品。 ○授業中の制作態度。 ○制作途中のスケッチブックのエスキース。
<主体性・多様性・協働性> ○画材や道具を正しく扱うことができる。 ○制作の準備を整えることができる。 ○教室内の片付けを行うことができる。 ○他の人の作品に対し、認め合い配慮することができる。	○授業中の様子。 ○授業後の片付けの様子。 ○画材の扱い方。 ○文化祭の準備の様子。 ○画材の忘れ物

【提出物状況の評価基準】

- A：作品が完成した状態で提出期限を守り、名札を貼っている。
 （ロイロノートに画像を提出した場合、個別に対応する）
- B：作品は完成し、名札を貼っている状態だが、提出期限を守っていない。
- C：「努力を要する」状況と判断される
- D：作品未提出の状態。